

鬼怒川の荒れた河川敷をお花畑に！交流の場に！ ～お花畑から広がるつながりの輪～

1 社会資本の概要

鬼怒川は栃木県と群馬県境の鬼怒沼を水源とし、茨城県守谷市において利根川に合流しています。源流部は渓谷を流下する急流となっており、栃木県日光市付近で奥日光から流れる大谷川と合流した後、川幅が広く雄大な流れとなっています。



河川敷に咲くポピーの花

鬼怒川上流域では、礫河原特有のカワラノギク、カワラハハコ等が自生しています。河畔林はオオタカの餌場となるとともにサシバ等の小型の猛禽類が営巣しています。また、サケやアユが遡上する河川として有名です。



地域に定着した「ポピーまつり」「コスモスまつり」は多くの参加者でにぎわいます

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

鬼怒川の美しい自然を守り育てることを目的に、「花の咲くきれいなところにゴミは捨てない」との願いを込め、空き缶拾いやゴミ拾いなどの清掃活動、石ころ拾い、花畑の造成、種蒔き、草花の植付け、散水などの活動を行っています。

活動を始めた当時は、河川敷一帯に大人の背丈が隠れてしまうほどの雑草が繁茂し、小さな車がやっと通れるような小道があるだけで、空き缶や冷蔵庫、



河川敷の清掃活動

自転車などが捨てられていました。

維持管理活動には、地元の女性会、小・中学校、高等学校の生徒さんもボランティアで参加しています。

現在の河川敷には、菜の花やポピー、ひまわりやコスモスなどが季節ごとに花を咲かせ、「ポピーまつり」や「コスモスまつり」は、多くの人でにぎわい、地域のコミュニケーションにもつながっています。



夏と言えば「ひまわり」。夏の強い日差しを浴びて、すくすく育ちました。春から秋にかけて、いろいろな花が河川敷を彩ります



茨城県筑西市 鬼怒川を愛する会

3 活動の成果や波及効果等

コスモまつり、ポピーまつりが地域に定着し、筑西ケーブルテレビでの放映や筑西市広報紙でも紹介されるようになり、年々参加者が増え、昨年度は300人を超えています。まつりには地域の各種団体が参加し、日頃の練習（太鼓や演奏など）の成果を披露するとともに、まつりを盛り上げています。

種まきが近づくと下館西中学校長に「鬼怒川を愛する会です」と電話すると「種まきですね。今年も協力させていただきます」と快く承諾いただき、毎年部活単位の協力を受けて活動の継続性につながっています。

そのほか、サルビアの植付けでは約100名参加（平成23年）、平成27年にはマリーゴールドを平成28年にはコキアをそれぞれ5,000株植付け、70名の親子が参加しました。



子供たちによるマリーゴールドの植付け

喜びの声



受賞者

鬼怒川を愛する会 会長 中澤 清一

コメント

鬼怒川の美しい自然を守り育てることを目的として河川敷に花畑を造成し、四季折々に咲く草花で人々の心を和ませるようになってから、14年が過ぎました。

「花の咲くきれいなところにごみは捨てない」この信条をかざし、石ころと雑草だらけの河川敷を花畑に変えた仲間たちとの汗の結晶が多くの人々に評価され、手づくり郷土賞に繋がったと喜んでおります。今後はこれを励みに新たな飛躍をめざしていきます。

活動内容

河川敷の清掃活動、花畑の造成、草花の植え付けや開花に併せた交流会の実施 など

活動の経緯

- 平成14年 鬼怒川を愛する会 設立
清掃活動・花畑造成開始
- 平成15年 活動広報紙 発行・配布開始
地域交流イベント 順次開催
- 平成24年 花畑造成面積20,000㎡完了
- 平成26年 活動記録誌「鬼怒のながれと共に」製作・配布

手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

茨城県筑西市伊佐山地先

活動主体及び連絡先

鬼怒川を愛する会
(0296-28-2201 日新合成工業(株)内)

対象となる社会資本

鬼怒川河川敷
※管理者：国土交通省 下館河川事務所

